石井至の世界放浪記

釧路育ちで、コンサルティング業務や出版などを手掛ける石井兄弟社（東京・原宿）社長の石井至氏が、釧路のまちおこしを目的に、「エンキョリレンアイ」（新潮文庫）で知られる小説家、小手鞠るいさんに釧路地方を舞台にした恋愛小説の執筆を依頼した。石井氏は外国の投資銀行に勤務した経験から、金融コンサルティングのほか、駐日ドミニカ共和国大使館名誉相談役を務めるなど、海外で幅広く活躍している。石井氏から見た経済、文化の世界観や釧路地方の活性化策についてのアドバイスを毎月1回掲載する。

兄弟社というのは投資銀行の典型的な名前の付け方なので、それにちなんだ。リーマン・ブラザーズ、ソロモン・ブラザーズの類である。

3年前、湖陵高校の同窓会の幹事学年になったとき、久々に釧路に来て驚いた。あの北大通が「シャッター商店街」になっていた。青春の丸三鶴屋、山下書店もなくなっており、駅前の金市館もパルコもなかった。丸高電気も消え去り、水産ホテルがMOOになってから久しいらしい。人通りが多かった北大通には、ひと気がなかった。湖陵同級生の拓殖不動産の杉村荘平君に聞くと、街の中心地が北大通から移動したという。

石井兄弟社は、現在海外の政府や銀行を主な顧客としたコンサルティング業務と出版社の機能を持つ。カリブ海の島国・ドミニカ共和国やキューバ、アフリカのルワンダが特に親しい。駐日ドミニカ共和国大使館名誉相談役の肩書きも持っている。関連会社で小学校受験のための塾「お客様は幼稚園児！」をやっているため、私を塾の先生だと思っている人も多いが、光文社の婦人誌VERY2月号の「小学校お受験」特集で取り上げていただいている。

そんな私が、故郷の街・釧路を盛り上げるために何かできないだろうかと自問自答して思いついたのが、恋愛小説による町おこしだ。

石井兄弟社は出版社でもあり、「お受験」関係の書籍と旅行ガイド（日本一高価。定価1万500円）を発行しているが、来年には文芸にも進出する予定だ。文芸進出第1弾は恋愛小説にしようと思い、昨年のはじめに、私が好きな作家である小手鞠るいさんに執筆を依頼した。多くの作品を送り出しているが、私が最も好きな作品は「エンキョリレンアイ」（新潮文庫）である。釧路の町おこしと結びつけて、「釧路を舞台にした恋愛小説」を書いてもらおうと思い、小手鞠さんとは2012年出版で了解をいただいた。

恋愛小説で町おこし

石井至氏（左）昨年3月に僧侶の池口恵観氏とロシアを訪問した際に撮影

湖陵同級生の中村基明君から市役所の東京事務所長・川村さんを紹介してもらい、昨年の在京湖陵会の同窓会で、川村さんから蝦名市長をご紹介いただいた。蝦名市長とはその時が初対面だったが、明るい人柄で頭の回転が速い人だと思った。9月の「どんぱく」のときに釧路を訪れ、「釧路を舞台にした恋愛小説で町おこしをしたい」と構想を相談したところ、すぐに賛同して、「できることは協力する」と快諾していただいた。

蝦名市長には、小手鞠るいさんに手紙を書いて欲しいとお願いした。釧路市がまちぐるみで応援する姿勢を見せることで、小手鞠さんにさらに素晴しい作品を書いて頂けるのではないかと思ったからだ。蝦名市長はすぐに手紙を書いてくれた。それを私がニューヨークまで持参し、小手鞠さんに手渡した。

小手鞠さんは、他の出版社はしない、この風変わりな提案をいたく気に入り、「スケジュールをなんとか調整して、2011年に釧路を訪問しましょう」と言っていただいた。後日、「蝦名市長にお手紙の返事を書いたので渡してほしい」と託され、昨年末、12月29日に市役所を訪れ、蝦名市長にお渡ししした。

小手鞠さんによる恋愛小説の執筆には、釧路の皆さんのご協力が不可欠である。

恋愛小説の執筆に意欲を見せる小手鞠るいさん（本人提供）

小手鞠さんの手紙

釧路の自然を要素に

実は石井さんにお目にかかり、蝦名市長からのお手紙をいただくまでは、なんだか雲を掴むような気持ちでいたのですが、石井さんから「釧路を舞台にした小説を」と、いきなりの先制パンチ、そして、市長のお手紙を拝読し、その場で完全にノックアウトされてしまった次第です。その後、暇さえあれば、釧路のことを思い、まだ見ぬ釧路の地や空や海に思いを馳せております。

私は岡山出身で、学生時代は京都で過ごし、その後は東京でも暮らした経験があるのですが、北海道へは一度も行ったことがありません。が、ここウッドストックと北海道は緯度が同じということもあって、アメリカに来てからはずっと、北海道に親近感を抱いてきました。雪が降り始めると、ああ、今、北海道でも降っているのかもしれないな…などと。また、私の夫はアメリカ人なのですが、五歳のときに両親と北海道旅行をしたことがあり、いつもそのことを自慢されてきました。このような背景もあって、いつか北海道へ行ってみたいとあこがれつづけていたのですが、なかなかそのチャンスに恵まれないまま、今日に至っていました。ですので、今回のこの企画、お誘いは、私にとってはまさに夢の実現、そのもののように思えます。

生来、自然、森、動植物などが大好きなので、釧路の湿原、たんちょう鶴、阿寒湖のまりもなどには、ひとかたならぬ関心を寄せております。「まりも」を、ペンネームにしようかなと思っていたこともあります。海産物、とくに秋刀魚は大好物なのに、こちらではほとんど口にできないので、ほとんど欲求不満に陥っています。後者はともかくとして、前者（釧路の自然と動植物）は、小説を構成する重要な要素にしたいと考えています。来年の帰国の折には、ぜひとも、釧路まで飛んでいきたい！と大いなる希望を抱いて、少しずつ計画を練っているところでございます。

蝦名市長

蝦名市長の手紙

私の住んでおります釧路市は北海道の東に位置し、阿寒湖と釧路湿原ふたつの国立公園を擁し特別天然記念物タンチョウが空を舞い神秘のマリモが棲む自然環境に恵まれた地域であります。サンマや毛蟹、しゃもにサケそして新鮮な牛乳や農畜産物の宝庫でもあります。

先日、釧路出身で私の出身高校の同窓生でもあります出版社・石井兄弟社社長の石井至さんから、「小手鞠るいさんに釧路を舞台にした恋愛小説を執筆いただければと考えている。釧路市としても、まちをあげて応援してほしい」という相談を受けました。

私も石井さんの勧めで、「エンキョリレンアイ」（新潮文庫）を拝読させていただき、純愛模様を綴られたロマンあふれる物語であり、心があたたかくなりました。

私としても、釧路を舞台にしてこのような素敵な恋愛小説をお書きいただけないものかなと思います。

ロマン溢れる物語を

たいへんお忙しい執筆活動の中であろうとは存じますが、できましたら近々、釧路に取材旅行に来ていただき、釧路のまちを全身でお感じいただき、若者たちの恋愛事情もお聞きいただければと思います。

ニューヨークからご招待はできませんが、東京に戻られた際に、ぜひ釧路まで足を延ばしてみていただけないでしょうか。

雪と氷に包まれた冬の厳寒の釧路もいいですし、真夏でも20度前後と快適で涼しく天然クーラー完備の夏の釧路も素晴らしいと自負しておりますので是非体感していただければありがたく思います。ぜひ前向きにご検討いただければと存じます。

巷論

先日、卒業生がやってきた。彼は釧路高専電気工学科を昨年3月に卒業して、若狭湾を中心とする某電力会社に入社していて、いわゆる求人活動も兼ねてやってきた。卒業時は表面上おとなしく、口数も少ない生真面目な学生であったものの、その年では確か最初に内定を出した学生であった。

今回、会って話してみると卒業時とは全く印象は異なり、冗談をふまえ会話を交わすようになっていた。話を聞くと「給料はたくさんもらっています。大企業に行って良かった」と笑顔で話していた。

一年たずにしっかりと社会人に生まれ変わったな、という印象と、やはり大手はしっかり人材を育てるな、ということを改めて感じた。こうやって電気工学科は一人も路頭に迷うことなく卒業生を送り出せることに感謝である。担任冥利に尽きる。この様子だと3月には保護者を迎え安心し、堂々と学生は卒業式を迎えられるだろう。この就職難の釧根において、これは胸を張って言えることである。

1月になって受験シーズンがやってきた。電気工学科は就職先を選ぶのに迷うほど多くの大手企業から求人が来ているものの、中学生には余りイメージがピンとこないのか、推薦入試において過去5年間を見ると、最大でも15人の志願者しかいない状態であり、定員割れが続いていた。今年は幸いにして推薦定員の20人を埋めることができて、5学科中で最も志願者が多かった。お礼を申し上げると同時に、志願した生徒の皆さんには卒業すればその先の進路に対して何も不安はいらないことを強く言っておこう。卒業時には将来が保証されているだろう。また学科選択に迷ったとしても、釧路高専は2年生に進級する際に希望学科を学生から調査し、学科を変更できるので、「まだ学科を決めてしまうのは不安」という中学生にも対応できるシステムを整えている。

学校行事として、この次は学力による入学願書受付が開始される。不況のどん底で大学進学率も低い釧根において、釧路高専は比較的安価に学ぶことができ、安心して就職および進学できる学校である。ぜひとも有効に活用していただきたく思う。（佐川　正人）

技術は就職、進学に有効

釧路高専を活用して

さがわ・まさと　釧路高専電気工学科准教授。専門は地理学・気候学。文学博士。

催し・展覧会

◇高橋美智子トールペイント作品展　喫茶・アロマ（T36－2331）29日まで
◇１月度ヒルズギャラリー「新春書道展」介護付有料老人ホームシルバーシティときわ台ヒルズ（T46－8811）31日まで
◇坂井たかし「水彩画展」カフェレスト　森のうさぎ（T23－8111）31日まで
◇楽々会による　カレンダー展　わっとギャラリー（T22－2232）31日まで
◇片倉吉郎作品展「花たちの初夏」珈琲屋　風待ち…ギャラリー釣り師の隠れ家（T080－1875－1051）31日まで
◇年の始めの布、小物たち　茶房あまぽ～ら（T55－1039）２月６日まで
◇チカ押し花会「押し花作品展」釧路新聞社ステップギャラリー（T22－1111）２月20日まで
◇道下一義「河口の街」油絵　喫茶珈琲坂（T91－6905）常設展
◇荻山勝之「アクリラ画・水彩画展」イエーメン、理容かめなし、美容ユーコ、細岡ビジターズラウンジ、コンキリエ、湿原ユートピア、アポロ、とうろユースホステル、カフェ・ド・パルレ、アズハウス、ベル＆リキ、しん、ファッションくぼ、シーサイドホテル、北斗湿原展望台レストラン「憩と」（連絡先　荻山　T46－6051）常設展
◇花巻俊雄「はがき絵展」釧路新富士郵便局（T51－3791）常設展
◇小林一雄「油彩画展」軽食・喫茶アウル（T91－8511）常設展

釧路魚菜市場相場（24日）

新富士地方卸売市場（単位：キロ円）釧路市公設地方卸売市場

	安値	高値		安値	高値
キンメ	－		こんぶ	105 －	115
ヌイ	－		いか	189 －	210
キメレイ	－		じゃがいも	94 －	105
ンガハレ	－		べにざけ	168 －	168
バウガレ	262 －	420	うれん草	895 －	895
ソヤナギガレ	262 －	630	ぎんなん	483 －	483
ヤマガヒ	－		白ねぎ	840 －	840
マオタ	840 －	1155	リフロワラッタ	787 －	787
アコイ	105 －	315	ロッコ	656 －	656
コイラ	－		タレ	399 －	420
サカブ	105 －	210	ニンジン	420 －	462
タマ	－		胡瓜	420 －	483
生コ	－		茄子	525 －	567
塩ケ	－	788	トマト	315 －	420
生ケ	－		マッシュルーム	685 －	790
ホスカ	－		にんにく	773 －	773
カカ	－		ねぎ	173 －	199
チピ	－		たまねぎ	1260 －	1470
エニ	263 －	368	きのこ	420 －	470
ウテ	189 －	294	いしめじ	320 －	370
ホキ	－	210	しめじ	790 －	840
ホミ	－		生しいたけ	950 －	1050
カン	470 －	1785	温州みかん	315 －	420
シバ	1181 －	1575	通予と	252 －	315
ニア	578 －	840	ちおな	876 －	1120
アッ	2100 －	4095	伊予柑	169 －	169
ジ	1050 －	1365	ばれんしょ		
シ	315 －	787			
サ	315 －	420			

根室市況

（24日・高値－安値）
単位＝キロ・円

	根室	花咲	歯舞	落石
ニシ	－	－	1397－368	－
リン	－	－	－	－
ブブ	－	－	662－578	－
ベダ	－	504－242	294－53	－
スギ	－	－	788－210	－
ウラ	－	－	－	－
カ類	－	－	397－21	－
リウ	－	－	－	－
カコ	714－662	－	－	－
イケ	－	179－42	179－26	－
キチ	－	389－21	399－11	－
イイ	179－58	－	－	－
イイ	－	－	1523－158	－
イイ	231－58	－	－	－
ウョ	－	819－420	137－5	－
ヒジ	－	105－21	－	－
ブラ	242－89	263－63	494－177	－
マッ	89－13	－	87－14	－
ハレ	－	452－189	1155－420	－
ウカ	－	－	－	－
バカ	－	－	294－187	－
サカ	－	－	945－210	－
メカ	－	－	－	－
カレ	－	－	788－210	－
ハレ	－	－	347－53	－
ウカ	－	－	504－189	－
バカ	－	－	945－53	－
サカ	－	－	189－84	－
メカ	－	－	－	－
カレ	－	－	－	－
ホソ	－	－	－	－
ホバ	－	－	－	－
ア黒	－	－	－	－
コ赤	－	－	－	－
カア	－	－	－	－
ヒ柳	－	－	－	－
ウサ	－	－	－	－
ホメ	－	－	－	－
ホカ	－	－	－	－
油	－	－	－	－

《キャッスルホテル》（T43－2111）
◇㈳内外情勢調査会釧路支部懇談会　12時
◇釧路きたしん麻雀大会　17時30分
◇港倶楽部　四川中華日替わりランチ　11時30分　四川中華ディナーコース　17時30分
《釧路プリンスホテル》（T31－1275）
◇平成22年度釧路建友会　総会　平成23年釧路建友会新年交礼会　17時
◇レストラン　トップオブクシロ　ランチバイキング　11時30分◇中国料理錦　錦コース　17時30分
《全日空ホテル》（T31－4761）
◇サンティーユ　選べるワンプレートランチ　11時30分◇雲海　年寿会席　17時◇藤　黒毛和牛と伊勢海老のコース　同
《シーサイドホテル》（T41－1717）
◇1Fレストラン啄木の宿　日替わりランチ　11時30分
【阿寒地区】
《公民館》（T66－2222）
◇阿寒野菜組合第50回定期総会　16時
◇楽歩クラブ　9時◇サルルン画会　13時◇サークル彩の会　13時30分◇リコーダー教室　同◇ディスコダンス　同◇コーラス　ポコ・ア・ポコ　19時◇英会話教室　同
《阿寒湖まりむ館》（T67－4400）
◇老人クラブ（健康教室）10時◇老人クラブ（民謡）18時30分
《スポーツセンター》（T66－3653）
◇卓球愛好会　10時◇シャトルサークル　13時◇卓球少年団　17時30分◇少林寺少年団　18時◇あかんスポーツクラブ　同◇バレーボールサークル　20時◇釧路ブラックファルコンズ　同
【音別地区】
《福祉保健センター》（T9－5151）
◇多目的集会室開放　10時
《コミュニティセンター》（T6－3811）
◇大正琴　18時30分
《森林体験交流センター》（T6－3344）
◇ヤングママーズ　10時◇ミニバレー同好会　14時30分◇羽球同好会　19時◇ミニテニス同好会　同
【釧路町】
《総合体育館》（T37－6665）
◇ファットバーニング　10時◇町バド協会　同◇HGG同◇卓球・ミニテニス同◇ソフトテニスたんぽぽ　13時◇つつじクラブ　同◇釧路町柔道少年団　16時◇東高　同◇トウィンクル同◇釧路町柔道同好会　同◇町バレー協会　同◇ソフトテニス教室　同

《キャッスルホテル》（T43－2111）
◇㈳内外情勢調査会釧路支部懇談会　12時
◇釧路きたしん麻雀大会　17時30分
◇港倶楽部　四川中華日替わりランチ　11時30分　四川中華ディナーコース　17時30分
《釧路プリンスホテル》（T31－1275）
◇平成22年度釧路建友会　総会　平成23年釧路建友会新年交礼会　17時
◇レストラン　トップオブクシロ　ランチバイキング　11時30分◇中国料理錦　錦コース　17時30分
《全日空ホテル》

ボウリング

《パレスボウル》
◇銀鈴クラブ第4例会　10時15分◇JLBCレディースクラブ第2例会　同◇道新文化センターボウリング教室　10時30分　19時◇プリランテクラブ第4例会　19時30分
《X－BOWL》（ジャスコ2F）
◇練習会　兼　チャレンジ　20時

救急病院

《夜間救急病院》
◇外科　釧路赤十字病院（新栄町21の14　T22－7117）※18時～翌朝9時
◇内科・小児科　釧路市夜間急病センター（住吉2の12　T44－6776）※19時～翌朝7時

保健手帳

《移動献血車》
◇9時～11時　釧路総合振興局　釧路建設管理部（双葉町6の10）
◇11時30分～13時　大丸渋谷商店㈱（川端町3の32）
◇14時30分～17時　㈳孝仁会星が浦病院（星が浦大通3の9）
【音別地区】
《BCG予防接種》
◇音別診療所　13時50分
《釧路赤十字血液センター》
◇400ミリリットル献血にご協力をお願いいたします。（フリーダイヤル0120－400－907）

図書館バス

◇10時20分～10時50分　桂恋保育園
◇13時30分～14時10分　春日公園
◇14時30分～15時10分　光陽児童館

親鸞　激動篇

五木　寛之作
山口　晃・画

招かれざる客たち（9）

「ふむ。この世は妙なことばかりだ。いまさら驚くこともあるまい。そなたほどの海千山千の男が、奇妙に思うことは、いったいどういうことだ」

彦山房の問いに、六角数馬は片手で顎をなでながら答えた。

「あの男に関して、妙なことはいろいろあるのですが、そうですな。たとえば、流罪になった者には、一般に一年から三年の役というものが科せられることになっております。盗みや殺人、また反逆の罪とか、そのような刑の場合には三年ですが、法然、親鸞などは遠流に処せられたとはいえ、破廉恥な罪ではありません。ですから、役は一年となります。その役を終えますと、そこで配所の戸籍に入れられ、刑期を終えるまで自活することになる。百姓と同じように田畠をたがやし、年貢その他の租をおさめて働くのです。そのための種籾は役所から貸しあたえられますし、ふつう男は二反、女は一段百二十歩ほどの田が、支給されます。そして収穫のあとには、種籾に利子をつけて返さねばなりません。さらに年貢もおさめなければならなくなります」

「国もせこいものだのう。あの手この手で、流人からまでも年貢をまきあげようとは」

彦山房はかすかに笑って、

「ところで、その一年の役とやらは、いったいなんだ」

「役、と申しますのは、従役のことです。まあ、役所や公の仕事に奉公させられることでございますね。荷を運んだり、田をたがやしたり、道や橋などを修理したり、役所の建物を直したりと、雑用は山ほどございます。郡司さまもご自分の領地をおもちですから、人手はいくらあっても足りませぬ」

「なるほど」

彦山房はうなずいて、さらにたずねた。

「では、親鸞も一年間、そのように役に服してこき使われたのだな」

「いいえ。そういう役と申しましても、かなり昔のしきたりでございます。しかも今度の流人は越後権介どのの身内でいらっしゃる。わたくしどもでは、まあ、おとなしく暮らしてくだされればそれで十分と思っておったのですが、なんとあの男、親鸞のほうが、自分から一年の役を形式どおりきちんとつとめたいといいだしてきかないのでございます。どうやら意地になっておりますようで」

「意地か。ふむ。だれに対しての意地だ」

－24－